

姫路科学館友の会会報 第186号〈2023年9月〉(友の会事務局発行)

## ⚡ 七十二候、雷乃収声 (かみなりすなわちこえをおさむ)

春分の末候「雷乃発声 (かみなりすなわちこえをはっす)」に対する秋分 (2023/9/23) の初候です。夏にくらべると穏やかですが、雹を降らせ作物を傷める春雷とは異なり、語源の「神鳴り」そのもの、神さまの大声と称される夏の雷は、稲や植物の成長を助けます。稲妻によって、肥料となる窒素を雨と一緒に地中に流し込むためです。稲妻は光そのもの、そこに音が加わったものを「雷」と呼びます。

(友の会会長 上田倫範)

## 🌸 花の歳時記「シシウド」(セリ科)

本州、四国、九州の日当たりの良い山地の草地や林の縁に自生する草丈2mにもなる多年草です。8~11月にかけて、頭頂部に白い花火のような白い花を散形に咲かせます。根は薬として独活(ドクカツ)と呼ばれ、掘り起こした根を洗浄して陰干しし、煎じて頭痛薬としたり、風邪緩和薬として、薬酒や風呂に入れたりして利用します。全草がウドに似ていて、ウドより大形で、またイノシシに食べられるところから、この名がつけました。



(友の会理事 古角孝之)

## 🌸 館長の科学館だより 姫路科学館近況 令和5年8月

子どもの頃は夏休みになれば、プールや川に行き水遊びをし、家の前の道で三角ベースボールをして遊んだりしました。しかし近年は道路面が熱くなり過ぎてとても遊べないほどの猛暑です。昔の夏が懐かしくとても好きな季節でした。地球温暖化によって、ゲリラ豪雨や発生する台風の威力も増して来ました。先の台風6号では沖縄で最大瞬間風速50.0mを超える風を観測し、甚大な被害が出ています。当科学館の3階には風体験スタジオがあり、風速20mの風を体験することができます。20mの風でも小枝が折れたり、風に向かって歩けない風力です。一度20mの風を体験してもらったらわかりますが、子どもや高齢者には相当危険な風です。実際に体験することで、身を守る術を考えるきっかけにもなりますので、ぜひ科学館に来て台風を体験してください。

(友の会常任理事 姫路科学館館長 中川吉郎)

### 【目次】

- P1 会長挨拶(友の会会長 上田倫範)、花の歳時記(友の会理事 古角孝之)  
館長の科学館だより(友の会常任理事 姫路科学館館長 中川吉郎)
- P2 ヤマガラ通信(元姫路科学館専門員・西播愛鳥会 森田俊司)
- P3 地球と生命の歴史(姫路科学館 学芸・普及担当課長補佐 徳重哲哉)  
「科学の足あと」シリーズ(元姫路科学館 吉岡克己)
- P4 南阿蘇からのお便り(南阿蘇ルナ天文台 福澄孝博)
- P5 Starry Night Story(姫路科学館 中島輝久)
- P6 科学のタネ(姫路科学館 学芸・普及担当 宮下直也)、よしだ君の話(吉田航希)